



考 え

第三十五回『イグジット・スルー・ザ・ギフト
シヨップ』と「グラフィティGO」



ラ

メモ欄

弦楽器イルカ  友人

第三十五回 『イグジット・スルー・ザ・ギフトショップ』と「グラフィティGO」～GからUへ～

「ポケモンGO」の最大の楽しみ方は、キミが考えた（超人や）ポケモンのぬいぐるみ（やキン消し）を街中に勝手に配置してくるってオチじゃない？

梶井基次郎『檸檬』に倣って、「ポケ様、リリースだぜ！」ってれっきとした文学活動を言い張れるし。

さて、今回はバンクシーって人の映画の話なんだけど。U、知ってる？

バンクシーの職業はストリート・アーティストとか、グラフィティやらエアロゾールアートのライターとかペインターとか呼び名はいろいろあるみたいだけど、壁の落書きから発生した文化だし、たぶんちゃんとした名前は付かない方がむしろカッコいいんじゃないのかな。

DVDの評判が良かったから映画観ただけど、なんか俺の感想と世間様のレビューがまたちょっと違うんだよね。いつもの妄想だけど、今回はそっから書いてみたい。

バンクシーの表現はゲリラ的で、匿名性が高く、毒とひねりがありつつも、ヘイトではなくユーモアもあって、俺もこんな風にかきたいなと理想に思う点が多い。

たとえば、自分が書いた渾身の一作にラベル付けて図書館の棚に勝手に並べたり、それっぽいカバー付けて本屋に勝手に平積みしちゃう人がいたら、それはそれで面白い。怒られた時はもちろん、「これは本ではありません。『檸檬』です」ってとんちで切り返せば、店主もきっと笑って「檸檬とは痛快痛快。通報するから泣き言は警察で言いなさい」ってなるよね！

『イグジット～』って映画も、タイトルからしていろいろ憶測を呼ぶ、ストレートじゃないひねりの効いた作品だった。

俺はほとんど行ったことないけど、海外の美術館には出口前にこういう案内文句があるって話でしょ？日本でももちろん、美術館の出口前にはギフトショップがあって、展示作品にちなんだ画集やポストカードの他、Tシャツやら文房具やらお香やらガチャガチャやら、オシャレでそれっぽいもんがいろいろ置いてあるよね。

これって下手すると、展示する美術館側がすでに作品自体を「ギフトショップ用の宣伝」くらいにみくびってんじゃないの？「はい。あなたがさっき鑑賞してたのはこの絵ですよ～。評価はともかく記念にポストカードの一枚でも買って帰ってね～」って。

あるいは、「美術館はポーッと絵を観て適当な土産買って帰るだけの退屈な場所か？だったら出て行きな。俺は自分が描いた渾身の一枚を勝手に飾ってから帰るぜ」ってバンクシーからのお誘いかもね。

この映画のレビューの論調は、「自分の考えではなく、権威の評価で価値が決まるアート業界に一石を投じる」とか、「偽物だって宣伝次第ではバカ売れする現代アートへの痛烈な皮肉」

とか、「どこまでがフィクションかわからない、登場人物も含めて壮大なだまし絵的作品」とかだった。

確かにまあわかったような気にさせるレビューだけど、ちょっとありがちな。「バンクシーに騙されたくない」「何かいいこと言ってやろう」ってカッコつけた結果、大したことは言えてない気がする。

この映画にバンクシーが仕掛けたかもしれない謎に気を取られるのはわかるけど、謎よりもまず現実を見ないと、木を見て森を見ないように、現実そのものを見失うと俺は思った。

この映画はキレイごとの解じゃなく、もっと単純で汚い事実を観客に教えてくれる。

つまり、「毒が少なく無害で分かりやすい流行が大好きで、感動もするし金も払う人々」が過去現在未来、たくさん存在するってことだ。今後これを「トイレの神様層」って呼ぶことにするよ。

この映画では確かにパッと見、ミスター・ブレインウォッシュ=MBWって「偽物」のアーティストが、大げさな宣伝効果でクソみたいな作品をバカなファンに売りつける方法が出て来て、それにバンクシーら「本物」のアーティストが反省したり呆れたり怒ったりしてるように解釈できる。

でももちろん、この世界に「偽物」も「本物」もない。絵なんてどれも基本的には単なる落書きだ。絶対的な意味や価値なんて、絶対的にない。

MBWが自身の作品でたぶん一番推してたのが、「でっかいスプレー缶にウォーホールのトマト缶を印刷したヤツ」だと思うんだけど、俺はあの発想は面白いと思った。なるほど、「アートは洗脳だ」って言葉にぴったりだと思う。MBWは言うほど馬鹿じゃない。

この映画を観て「MBW=純粋にカメラ好きで、ただのノリも人も良いおっさん」みたいに評するレビューもあるけど、人の良いおっさんは妻子をほったらかして無断で全財産をアートにつき込んだりしないよ、と俺は思う。この人の業はもっとずっと深いはずだ。

でなきゃ、「善良なはずの市民が実は一番怖い」ってよく聞くいつものオチかもしれない。

もう一回書くけど、バンクシーのわかりやすいフォロワーであり、より毒がなく無害なMBWという流行に感動し、金を落とす人々が多数存在した。

これをわかりやすく例えると、椎名林檎と矢井田瞳、宇多田ヒカルと倉木麻衣、aikoと大塚愛、キヨロと花*花とかになる。本人やファンは否定するかもしれないけど、この手のフォロワー現象はどの業界にだってあるはずだ。

もちろんどっちが「本物」で「偽物」かなんて議論は不毛だ。ただポイントは椎名や宇多田、aikoは強いオリジナリティ（これは毒やひねりと言い換えてもいいと思う）を持っているため、多くのコアなファンもミーハーも金を出す。

一方、フォロワーのオリジナリティは弱いため、コアなファンとミーハーは始めの頃しか金を出さなかった。結果、椎名や宇多田、aikoは長期間、第一線で活躍できるが、フォロワーはでき

なかった。

ひるがえって、バンクシーのオリジナリティは強いから、そのオリジナリティにもコアなファンが付く。

一方、MBWは「LOVEが大事だから」って理由で「LOVE」って絵のど真ん中に堂々と書きちゃう画風だった。しかも俺がこの映画を観た感じでは、MBWはむしろ「毒やひねりはアートにとって小賢しいし不要」だと考えてた気がする。「LOVE」って直球ストレートに書いたほうがすっきりしていいじゃん、って確信犯だと思う。

そういうひねりのないキレイごとが大好きだけど飽きっぽい「トイ神層」はどこにだって多数存在する。

その証拠にたとえば、福島の子供が172人になったり、家族の会ができた、他にも原発作業員のピンハネ、汚染水、凍土壁の話は、表のニュースにほとんど出なくなった。

特に甲状腺ガンに関しては、御用学者曰く「統計的に有意な差が出るまでは今まで通り、考えにくいという表現を使う」そうだ。はじめは「絶対に有意な差は出ない」って言ってたけど、もうその可能性を否定しなくなってきた。有意な差が出てからは、俺は遅い気がするけどね。

マスコミも今までは「否定」を報道してたけど、今はもう「存在自体」をほとんど報道しなくなった。これも、多数派の「トイ神層」が自分のトイレをキレイにすることにしか関心がないせいだろう。他人のトイレ掃除には興味ないんだよ。

そういう「自分だけキレイなトイレ」に忍び込んでこっそり落書きするような動きとして、「バンクシーGO」ともいえる『バンクシー・ダズ・ニューヨーク』って映画が上映されたり。または、「ポケモンGO」を下敷きにした「シリアGO」って活動も、まさにグラフィティの手法で戦禍を伝えようとしてる動きだ。

だからそのうちどっかに「グラフィティGO」ってサイトが立ち上がる気がする。バンクシー他、国際的に名の知れてるアーティストたちが世界の名所、スフィンクスとか自由の女神とかに、ネット上でグラフィティ描いたりとか。可能なら実際にそのグラフィティを現実にも描きこむとか。あるいは有名な人とかが有償で、ここの壁にも書いてくれって要望を投稿したりとか。

単なる「ヘイト=害」や単なる「LOVE=無毒」を超える表現が望まれる場所が確かにある。例えば今回の表紙の「メモ欄」とかの場所にね。そういう意味で「メモ欄」を使ってね。この流れで原発や汚染水タンクにも何か描いたら面白いと俺は思うけどね。

今回はこんな感じ。どうかな？

珍しく宣言するけど、次回は『ニンジャスレイヤー』と「ブローケン・ハート」（初代『マクロス』）で書きたい。Uはあんま興味ないかもだけど。



考えるウマシカ～第35回 『イグジット・スルー・ザ・ギフトショップ』と「
グラフィティGO」～

<http://p.booklog.jp/book/108746>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/108746>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/108746>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ